

令和 8 年 7 月記者会見

質疑応答の概要

①「街の住みこちランキング 2026」7 年連続東北第 1 位

Q.

7 年連続 1 位ということで、市長の率直な受け止めや今のお気持ちをお聞かせください。

A.市長

富谷市は東北 77 市の中で唯一鉄道の駅がない市であり、また、高速道路につきましても、現時点では仙台北部道路の富谷インターチェンジが、ハーフインターチェンジとして一つあるのみです。ようやく念願であった富谷ジャンクションのフルジャンクション化が決定し、その実現に向けて進んでおります。決して都市機能とすれば恵まれていない本市が、このように高い評価をいただけたことは大変うれしく思います。これは、因子別順位にあるように、生活利便性や行政サービス、防災、親しみやすさなど各項目で市民の皆さんから評価をいただいた結果だと考えています。この評価を誇りに、今後も引き続き高い評価をいただけるよう、市民の皆さんと共に努力を続けていきたいと思っております。

Q.

そんな中、交通利便性の順位は 7 位ということで、今後の交通の利便性向上への取組についてお聞かせください。

A.市長

これまでも住民アンケートの際、一番望まれる政策の上位が常に泉中央への公共交通でした。公共交通に対する課題を感じている市民の皆さんが多く、その課題解決に向けて、地下鉄延伸や BRT（バス高速輸送システム）などを検討してきた中、現在新たな選択肢として都市型自走式ロープウェイ Zippar の導入を検討しているところです。昨年の導入可能性調査で、Zippar の導入が物理的に可能という結果が示されたため、今年度は引き続き、市独自で調査を行っています。また、富谷ジャンクションのフルジャンクション化が決定し、現在その実現に向けて工事が進んでいるところです。一つ一つの積み重ねが市民の期待に応えていくことにつながると思っておりますので、今後も公共交通の利便性を高められるよう努めてまいります。

Q.

今回このランキングの自治体の中で偏差値が唯一 80 点台ということですが、去年までの偏差値はどのくらいだったか教えてください。

A.市長

ここ数年は、同様に 70～80 点台の偏差値だったと記憶しております。

その他の案件

Q.

県が 7 月 18 日にクマ出没警報をクマ出没注意報に切り替えましたが、市長の受け止めを教えてください。

A.市長

本市では昨年、明治安田レディスゴルフトーナメントの開催前日にクマの目撃情報があったことから無観客で大会が開催され、その後、しんまち地区で人身被害が発生し、他の自治体よりも真っ先にクマ対策本部を設置して、河川敷の刈払いなどのクマ緊急対策パッケージに取り組んできました。クマの目撃情報は冬場から途切れておらず、昨年度以上に増えていることから、今年度も対策本部を継続し、警戒レベルを全く変えずに対応しています。県が注意報に切り替えたのは県全体としての判断だと思っておりますが、本市としては引き続き最大限の警戒を続けていきたいと考えております。今年度はすでに 2 頭のクマを捕獲しておりますが、箱ワナを設置することも現状では県に権限があるので、目撃情報があった際に基礎自治体が速やかに設置できるよう、権限の移譲を市長会を通じて県に要望しております。先日の市町村長会議で知事から前向きな答弁を得ており、早期の実現に期待を寄せているところです。

Q.

昨日ありました熊本地震の件ですが、市として職員派遣などの予定はありますか。

A.市長

職員派遣については、要請が来ていない現段階では具体的な予定はありませんが、被災状況が明らかになり国や市長会を通じて要請があれば、可能な範囲で最大限協力していきたいと考えております。まずは被災地の状況を見極め、できることから支援していく所存です。

Q.

被災地への義援金を行うということで、改めて呼びかけをお願いします。

A.市長

東日本大震災の際に熊本県御船町から見舞金などの支援を受けた経緯があり、10 年前の熊本地震の際には、市としていち早く支援物資をお送りした経緯がございました。今回の熊本地震に際しても、過去に受けた支援への恩返しの意味を込め、富谷市民の皆さんにご支援をいただけるよう広く呼びかけていきたいと思っております。

Q.

富谷市にもイオンモールがあると思いますが、今回の熊本地震で起こったイオンモール爆

発事故について、市長の受け止めをお聞かせください。

A.市長

イオンモールの爆発事故につきましては、現時点では原因が特定されておられません。原因が判明次第、イオンモールにおいて必要な対策が講じられるものと考えております。行政としても、協力できることがあれば適切に対応してまいりますが、まずはイオンモールからの注意喚起や対応方針を注視し、その内容を踏まえながら必要な対応を検討していきたいと考えております。

Q.

募金箱の設置場所を教えてください。

A.市長

市役所 1 階の総合案内窓口と長寿福祉課窓口、各出張所（市内 5 カ所）、保健福祉総合支援センター、とみや子育て支援センター、福祉健康センターの 10 カ所です。

Q.

都市型自走式ロープウェイ Zippar に関して、国土交通省が先週発表した令和 8 年度版国土交通白書に、次世代交通システムの例として取り上げられていましたが、そちらに関する受け止めをお願いします。

A.市長

今お話がありましたように、令和 8 年度版国土交通白書の第 2 章に掲載されている内容につきまして、私も拝見いたしました。国土交通省としても、今後の新たな交通システムとして期待する事例の一つとして取り上げられており、大変心強く感じております。また、開発者である Zip Infrastructure 株式会社の須知 CEO へのインタビューも掲載されており、国土交通省においても Zippar が一定の注目を集めていることが伺え、今後の展開に大きな期待を寄せているところでございます。現在、軌道事業に係る認可申請が国土交通省へ提出されている状況にあります。そのような中で今回、令和 8 年度版国土交通白書に掲載されたことは、大変意義のあることと受け止めております。今後につきましては、全国で導入に向けた調査・検討を進めている自治体とも連携を図り、情報共有や課題の整理を行うための連絡協議会の設立も視野に入れながら、協議を進めてまいりたいと考えております。

Q.

連絡協議会の設置はいつ頃を検討していますか。

A.市長

正式な設立時期につきましては、現時点ではまだ明確になっておりませんが、7 月 15 日に開催された全国市長会に合わせ関係自治体の出席可能な市長が集まり、連絡協議会の設立

に向けた準備会が開催され、私もその準備会に出席いたしました。